

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

OHVIRA 症候群に対する腔中隔切除術の手術手技および治療成績に関する後方視的検討

1. 対象となる患者さん

2020 年 1 月～2025 年 12 月の間に当院で OHVIRA 症候群と診断され、腔中隔切除術を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学 産婦人科学講座 山田 有紀

3. 研究の目的と意義

OHVIRA (Obstructed Hemivagina and Ipsilateral Renal Anomaly) 症候群は、子宮や腔の形態異常と同じ側の腎臓の異常を伴うまれな先天性疾患です。治療として、腔を閉鎖している中隔を切除する手術が行われますが、若年の患者さんや腔腔が狭い患者さんでは、十分な手術視野を確保することが難しい場合があります。当院では、従来の腔中隔切除術に加えて、内視鏡 (Vaginoscopy) や経直腸超音波を用いた手術を行っています。この研究では、これまで当院で OHVIRA 症候群に対して腔中隔切除術を受けられた患者さんの診療情報を振り返って調査し、それぞれの手術方法、手術中の所見および治療後の経過を検討することを目的としています。

この研究によって、OHVIRA 症候群に対する腔中隔切除術の特徴や工夫を明らかにすることで、今後、より安全で適切な手術方法を検討するために役立つことが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、OHVIRA 症候群における腔中隔

切除術の手術方法、周術期合併症、治療後の経過について検討します。また従来の方法と内視鏡（Vaginoscopy）を用いた方法について、それぞれの手術手技の特徴を検討します。

5. 使用する情報

診療情報：年齢、初経年齢、性交渉歴、既往歴、診断時の症状、子宮・腔の形態、腔閉鎖側、腎・尿路系の異常、腔留血腫の有無および大きさ、瘻孔（閉鎖腔腔との交通）の有無、超音波検査・MRI 検査の所見、手術方法、内視鏡（Vaginoscopy）および経直腸超音波の使用状況、腔中隔の位置・形態、手術時間、出血量、手術中および手術後の合併症、入院期間、手術後の診察・画像検査所見、腔狭窄や腔留血腫の再発、再手術の有無、最終観察時点までの経過、手術時に記録された画像・動画

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2027 年 3 月 31 日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 産婦人科 山田 有紀

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：yuki0528@naramed-u.ac.jp